

R-2-6 院内がん登録からみた COVID-19が当院のがん診療に与えた影響

大森早貴⁽¹⁾ 大槻憲吾⁽²⁾ 青柳ひとみ⁽¹⁾
 布目久夫⁽¹⁾ 田仲百合子⁽²⁾ 小泉知展⁽²⁾
 (1) 信州大学医学部附属病院 診療録管理室
 (2) 信州大学医学部附属病院 信州がんセンター



1. 目的

長野県においてCOVID-19感染症が広がった2020年以降、信大病院は松本医療圏において、COVID-19感染症の最重症患者を受入れる病院として役割を担っており、診療制限が必要な状況も時折発生した。そのような状況下で、当院のがん診療への影響を2020年院内がん登録情報から考察する。

2. 方法

【対象】

信大病院2016年～2020年までの5年間の院内がん登録症例

【調査内容】

診断月、部位、発見経緯、患者住所二次医療圏、来院経路等について2016年から2019年の4年平均と、2020年を比較解析した。

【使用データ】

長野県と全国：院内がん登録全国集計報告書のがん診療連携拠点病院等データ
 長野県内コロナ患者数：長野県健康福祉部感染症対策課 長野県感染症情報

【集計方法】

2020年全国集計の定義に基づき集計を行った。

3. 結果

当院の院内がん登録数

4年平均：2,155件
 2019年：2,180件
 2020年：2,203件

2020年は、全国と長野県は、対前年比が大幅に減少した(図1) 一方で当院は、対4年平均比、対前年比共に、増加した。(図2)



図3に2020年毎月の院内がん登録数と長野県内コロナ患者数を示した。

2020年5月 緊急事態宣言発出中 院内がん登録数は減少した。
 長野県内コロナ患者数は、緊急事態宣言発出後8月・11月～12月にピークを迎えたが、当院の院内がん登録数は、影響を受けなかった。

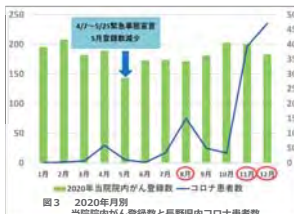


表1に部位別登録割合の対4年平均比を示した。

部位では、4年平均と比較し、肺、乳房、口腔・咽頭、子宮体部、膀胱、食道が10%以上増加した。

部位	4年平均と2020年の比較
肺	11.3%
前立腺	1.6%
乳房	13.5%
皮膚(悪性黒色腫を含む)	-6.8%
大腸	-10.3%
胃	1.1%
口腔・咽頭	14.4%
脳・中枢神経系	-9.5%
子宮体部	21.6%
甲状腺	-3.9%
肝	-10.2%
腎・他の尿路	-1.4%
膀胱	23.1%
膵	-16.5%
食道	14.8%
子宮頸部	-13.3%
卵巣	7.1%
胆嚢・胆管	-34.1%
骨・軟部	-12.9%
喉頭	-46.7%
その他	16.3%

図4に発見経緯別登録数を示した。

発見経緯では、「がん検診・健診等」の発見数が、対4年平均比では16.3%、対前年比では21.2%増加した。

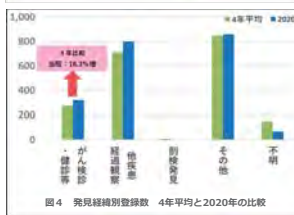


図5に来院経路別登録の5年間の推移を示した。

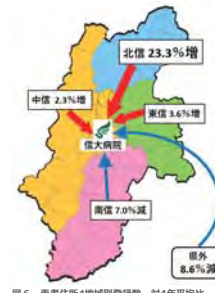
来院経路では、「他施設紹介」の登録数が、対4年平均比では2.1%、対前年比では3.5%増加した。

表1 当院院内がん登録 部位別登録割合 対4年平均比



図6に患者住所4地域別登録数の対4年平均比を示した。

患者住所4地域別登録数では、北信・東信・中信が増加し、南信と県外が減少した。特に北信地域は、対4年平均比23.3%、対前年比28.3%と大幅な増加を認めた。



4. 考察及び結論

2020年信大病院は、他の二次医療圏や他施設から紹介の登録数の増加が認められ、がん診療の地域連携協力体制が図れていたと推測される。コロナ禍においても、当院は、都道府県がん診療連携拠点病院としての機能が保持されていた。